

Weekly Report

国際ロータリー第2750地区 東京多摩グリーンロータリークラブ

1993~1994年度クラブ目標 “出会いを大切にしよう……例会で、みんなが、待っている”

第170回 例会報告 (4/20)

司会者 SAA 中山 恒武

◇点鐘 会長 横倉 舜三

◇ロータリーソング「手に手つないで」
ソングリーダー 菊池 敏◇お客様紹介 会長 横倉 舜三
宿院 利幸様 (日産自動車)
中嶋 博様 (東京新宿RC)

◆ 会務報告 会長 横倉 舜三

本日午後7時から催される、国際緊急災害援助のためのチャリティコンサート(会場オーチャードホール)に21名という多数の会員が参加いただけますことを心からお礼申し上げます。

◆ 幹事報告 幹事 北村 幸彦

- 1) 例会臨時変更のお知らせ
東京調布むらさきロータリークラブ
6月2日(木) → 6月1日(水)
東京多摩ロータリークラブ
創立25周年記念式典に振替え
16:00 登録
16:30 開会
「京王プラザホテルエルミネンスホール」
東京五反田ロータリークラブ
5月2日(月) → 休会
メイキャップ受付は行います。
- 2) 東京多摩RC創立25周年記念式典
登録料振込のお願い

本日皆様のお手許に振り込みのお願いが配布されておるはずですが振り込み先は当クラブの口座ですでお間違えのないようにお願いします。現在会長、幹事を除き34名の申込をいただいております。

3) チャリティコンサートについて

本日渋谷のオーチャードホールに於いてチャリティコンサートが行われます。受付で西川さんがお手伝いしてくださいますので早めに座席券と引き換えてください。

今、券をお持ちでしたら西川さんに渡しておいていただければ座席を確保しておいて頂けるそうです。

委員会報告

◆ 出席委員会 委員 根本 泰守

	総数	出席	MU	欠席	出席率
本日報告	52	40	3	8	84.31%
前回訂正	53	43	5	3	94.12%

メイクアップ

大松 誠二	(4/13 国立白うめ)
小島周二郎	(4/13 国立白うめ)
高野 範城	(4/13 麹町)
田中 實	(4/15 地区世社奉)
藤本 吉文	(4/18 調布)
高村 弘	(4/19 多摩)
津守 弘範	(4/19 多摩)
大熊 将夫	(4/19 多摩)

欠席届出者

赤尾 恭雄、小坂 一郎、関岡 俊二、
高村 弘、高野 範城、津守 弘範

欠席者

永田 健作

★★★★★★★★★★

ニコニコ BOX

委員長 吉尾 警太郎

★★★★★★★★★★

遠藤 二郎 地区親睦ゴルフ大会にて個人優勝で
きました。新海さん、小林さん、吉
尾さん、更に予選及び当日出場者の
皆さん、お世話様でした。御指導の
おかげです。

チャリティーホールいずれもワンオ
ンしかしいずれのホールも前金にて
チャリティー済。優勝スピーチで更
に10ホール分のチャリティー。ちな
みに祝勝会で5ホール分金がかかります。

橋口 洋三 2750地区親睦ゴルフ大会(参加130人)
で遠藤さんが優勝、団体戦で優勝で
なく2位同ネット3位だったので、萩
生田キャプテン、フセインお世話に
なり、有難うございました。

平野 行廣 2750地区親睦ゴルフ大会にて、遠藤
さん個人優勝おめでとうございま
す。

伊神 稔 地区代表ゴルフ大会に参加の皆様入
賞おめでとうございます。遠藤さ
ん、記念すべき個人優勝おめでと
う。

北村 幸彦 遠藤さんおめでとう。練習の成果が
出ましたね。吉尾さんにも教えてあ
げて下さい。幹事が出れば完全に優
勝でしたね。

吉沢 洋景 宿院さん、ようこそ、あまりケガを
しませんように。

吉尾警太郎 2750地区コンベ事務局が辞めないよ
うに、親睦委員長を自覚しての調整
の結果です。

合計 22,000円

◆ロータリー豆知識

ロータリー情報委員が居りませんので各自精読
してください。と司会者より発言。

◆青少年奉仕委員会

委員長 橋本 幸夫

中山恒武会員が会長を務めています多摩稲城交
通安全協会に、この度交通安全少年団が結成さ
れ、鼓笛隊が編成されることになりました。器材
の購入資金に対して援助の申出がありましたの
で、理事会で協議の結果、当クラブより25万円を
拠出することに決しました。内訳は、当クラブで
10万円、残り15万円は、会員一人当たり3千円
のご寄附をお願いいたします。受付は事務局が行
いますが、窓口は当委員会が受持ちますので、宜
敷くお願いします。

◆2750地区親睦ゴルフ大会について

萩生田 茂夫 会員

当クラブが東分区優勝者ということで、代表で
参加してきました。結果は3位でした。個人競技
では当クラブの遠藤二郎会員がネット66で優勝い
たしました。次年度は優勝しました成城クラブが
ホストです。当クラブも再び参加できるような態
勢に持っていきたいと思います。

◆ゴルフ部からご案内

伊神 稔 会員

4月25日(月)東相模GCでプロ、アマチャリティ
競技があります。参加者は時間厳守として下さ
い。

◆2750地区親睦ゴルフ大会

優勝者のことば

遠藤 二郎 会員

予選出場で出場権を取っていただいた皆さん、
又、当日も出場者の皆さんのご指導の賜です。こ
のコースは、トリッキーな平坦な所が少ないコ
ースでして、距離の出る人や上級者は以外とOBが多
かったり、池に入ったりする変なコースなんで
す。来年はもう少しハンデをつめ、出場し、胸を
張って優勝したいと思います。

☆ お詫びと訂正 ☆

Weekly Report No169号「ロータリー豆
知識」の記事中「ロータリー情報委員長 吉尾
警太郎」とあるのは「ロータリー情報委員長 赤
尾 恭雄」の誤りにつきお詫びし訂正いたしま
す。

「獣医業 あれこれ」

東京稲城ロータリークラブ
添田 邦治様

只今ご紹介頂きました添田邦治と申します。

こちらのクラブ創立年度の秋山ガバナーの時東分区代理を務めさせて頂いた関係で、皆さんとはいろいろ顔見知りの方も多と思います。



獣医という職業について、成人してから現在迄同じ職業といっても範囲が広いですが、やって来た経緯がございます。ロータリークラブには昭和52年に稲城の5年度の時お世話になりまして、ずっと務めさせて頂きました。その間もいろんな役をやらせて頂いて何とかやってきた訳です。今年で69になり70才に近い年になりまして、物心ついて商売に入ったのが獣医でございます。学校にはいったいろんな経緯もございますけれども、こちらのクラブの会員の方は皆さんはお若いから私らのようなひどい時代は通っていないと思います。青年時代に大战を過ごして来たので、そのような事と現在の私等の商売についてお話させて頂きたいと思ひます。私の失敗した人生を皆さんが歩まないような観点或は世の中がどうなるんだろうかというようなこと、獣医なんてあまり知らないがどういふような事をやっているのかということもお見知り置き頂ければ幸いかなという事で、奥木さんのお話を承諾して今日ここに参ったわけでございます。

動物が子供の頃から好きだったので、近くにある獣医学校、府中にある今の農工大へ行きました。入ったのは昭和18年で学徒動員等はありませんが、学業については1年間はみっちり専門の教育を受けましたが、2年か

らは学徒動員ではありませんが生産の現場に出され、19年はほとんど学業はやっておりません。軍需工場或は農村というような肉体労働に出されておりました。その間も学校の活動はありまして、陸軍の委託生ということでそっちの方の勉強もさせて頂きました。昭和20年になって、戦争も皆さんご存じの様に8月に負けました。予定上は3年の学業ところ2年半に短縮になっておりまして9月に卒業、卒業と同時に兵隊に行くことになっておりました。8月に負けてしまったのですが、1ヶ月間は学校はやっておりまして授業をして9月にはハイ卒業だという事で追い出されましたから、殆ど獣医学の応用などは勉強しておりません。兵隊さん達がどんどん返って来ますので、就職する事も出来ませんし、「学校出たけれどどうするんだ、家でブラブラしたてしょうがないじゃない」等と言われたりしながらも職探しをやったけれども殆ど職はございません。あちこち歩いたけれど仕方がないから、すぐ近くの東京都の畜産試験場に「使ってくれないか」と場長のところへ参りましたら「今使えるような状態じゃないよ、兵隊さんから返ってきた人達で精一杯だよ。じゃあ臨時人だったらいいよ、畑をおこしたりなんかするなら来てな」と温情で2~3ヶ月行っておりました。そのうち先輩の勧めで日本畜産振興という会社に正規の社員として採用され、約1年そこで殆ど国案会社ですので、牛の売買・肉の売買のような仕事でした。芝浦の屠場を行ったり来たり、全国の牛の産地で牛を買うとかいふような仕事だったのです。その後農林省に採用され、畜産の出先機関で長野の牧場に赴任しそこに10年間いました。そこは昔の種馬場で軍馬の生産の拠点でしたが、戦後は必要ないので牛やヤギ・ウサギ等動物の改良の仕事をしていました。神奈川県にこないかという事で神奈川県庁にお世話になり、5年程酪農主任をやりまして神奈川県の乳牛の繁殖や乳しぼり等を5年やり、15年も月給取りをしました。動物が好きでそれに関係のある仕事をしたいと思っていましたが、なかなか出来ずにいました。たま

たま小さな動物のニワトリも好きですし仕事としてはニワトリは殆どやってないんですけども、養鶏でもやればなんとかなるかと思われ、脱サラし現在のところでは養鶏を始め、5年間やりましたかね。経済、資金も無ければ土地も無い・何も無いところで始めたもので、なにしろ狭いところでニワトリをかず飼って、理屈では・理論的にはどうやれば儲かるか分かっているのですが目の先のあれがあったので多数飼ったものでなかなか経営がうまくない。経営がうまくゆかなくても、ぐずぐず借金をしながらなんとなくやっていました。その内食肉もやらなければならないということで、ニワトリの食肉の処理・販売迄手を出して何とか生きて行けるけれども、身体が大変なんですね。夜も昼も働かなければならない。若い衆をおいても、若い衆もそういう風に出来ず身体をこわしたりしました。それと同時に社会化が昭和35年・40年頃になりもうニワトリも飼えない。ハエが出るの、うるさいの・臭いのといういわゆる今でいう公害があったので止めなければならないかということで、たまたま獣医師の免許を持っていたので、社会情勢が犬・猫を対象にしても何とか生活出来るかなどかなという情勢の時代になったものですから仕事は若い者に任せてその方に専念して現在に来たものです。何とかなってきた頃、ロータリーに入らないかということでお世話になってあらゆる皆さんのいろいろな指導を頂いて、人間の生きる一つの道としてロータリーの皆さんのお話を聞いて、「ああ、やっぱりそういうものかな。自分が稼ぐだけではなく皆さんの為に働くといっても働く事は無いし」ということで随分ロータリーからはお世話になって現在も何となくこうやって生活出来る状態になりました。もうこれで先がそんなに無いので皆さんにどうして奉仕して行くのか今でも模索している状況でございます。

かんじんの獣医のことでございますが、私の経験してきた現在迄の役人時代・自分が自営した養鶏時代・養鶏を真剣に5年間もう真っ黒になって働いた時それから診療・小動

物の診療をやる為には、結局結構長い間大学へ通って外科とか内科の勉強もしなければならぬし、仕事もしなければならぬとやりながら来たわけです。その間日本の獣医制度についてもいろいろぶつかったこともございました。獣医の流れということとか一部エピソードでもあれば申し上げたいと思うけれど、まとめてきた事がなかなかまとまらないし時間はないし喋りはじめたらちょっと急所が喋れなかったりするんですが、出来るだけ申し上げたいと思います。獣医の歴史というのは皆さんあまり関心が無いでしょうけれども、日本の国の成り立ちはみなさんご存じのように島国であるし仏教も入ってきたせいもあるでしょうけれども肉食・四つ足は食わないという習慣と魚が充分あったということから、動物に対する感覚が殆ど無い。特に行政ですね。ただ馬が戦争する為の一つの兵器として昔から使われたんでしょうけれども馬を持っている地方の軍の組織は強かったんで、これがお互いに幕府にとかなんかにあったのでしょうし、徳川時代は鎖国だし殆ど外国とのあれが無い。唯一攻められたのは元寇だけです。まあ平和に日本国民は明治時代迄生活して来られた。明治で開国しますと日本の生活様式・外国に対する軍事の問題も含めて非常にあれだということで明治政府のあれがあれしたんでしょうけれどもその畜産・農業の形態の為の動物を中心にすると同時に、農業の中の馬ですから軍事を強くしなければやっていけない。特に日清・日露の戦争で馬の重要さは軍当局は相当深刻になったわけです。それで軍馬の生産が陸軍の一番中心的な課題になって、馬の生産・育成というのがあれで、全国北海道から九州まで種馬の増強というものを全力を上げてやったわけです。その為に農林省の組織・陸軍の組織を含めてやった設備が私が最初に務めたシチブ牧場だったわけです。私の獣医の仕事は馬中心で戦後位まではやってきてます。その他産業としては、牛・綿羊・ニワトリとか山羊とかいろいろあったんですけども産業としては小さなもので、特に牛は酪農ということで、

牛乳の生産・肉の生産ということであったのですけれども大したことはないし陸軍が中心でやって来たのですが、戦争で負けてしまうと馬は駄目だとしても馬の使用頭数というもののはあの時全国で120~130万頭あったのですが、それを明日すぐ肉にする訳にもいかないし、そんなことで徐々に馬の頭数は減るし、又飼っても一つも経済的に軍馬の購買がなければ農家としても経済的には何も役に立たないのでどんどん激減していきまして、その反面牛が増えてきた。牛の資源は非常に世代が長いから今日行って明日すぐ増えるわけにはいかないが、段々と牛の頭数が増え今では牛乳が多すぎて困るようになって来ました。戦争に負けますと我々獣医は必要がないではないかというかたちであれたのですが、世の中が安定すると同時に小動物が飼われるようになり、犬が増えると同時に狂犬病がでて来る、狂犬病は非常に恐れ病気でございます。一世風靡したのが昭和22~23年頃から25~26年頃迄あったのですが、きゅうきょあまり出たので狂犬病予防法という法律を作りワクチンも出来ました。法律の制定があり、今でも集合注射というものをやっております。あの頃は進駐軍の時代ですから、日本の獣医さんの程度の非常な低さをアメリカ陸軍の占領軍のその担当者があれして、「狂犬病予防法を作ったら、獣医さんがちゃんと生活出来るようなものをしろ」というような特命があったらしいです。そんなものが表に出た訳ではないんですが、狂犬病予防法・犬を注射することで獣医さんの収入もいくらか潤ったという形。そのうち犬を飼うと病気をする・伝染病もある・予防注射もしないといかん・一般病もあるということで現在まで行われている。社会的にはもう日本には30何年出ていないからやる必要がないのではないかとご意見もございますけれども、やはり臨調その他の答申もございましてまだ少しやるというかたちで、その内に集合注射のようなものはなくなるような情勢だと思います。なかなか行政改革が難しいように、そういうものの改革はなかなか難しいと思います。獣医である私

等のような場合には、狂犬病の注射による収入もある意味の一つの大きな財源でありますし、組織の中にも相当貢献していることでございます。

獣医技術の中で一つ皆さんに聞いて頂ければと、いろんな新聞・雑誌等で受精卵の移植という事が或は他の腹を借りて、人間もやっているようですが。いい動物の受精卵を普通の牛の腹に入れて生産をする。クロムといって一つの卵を二つあるいは四つに・八つに分けて同じ動物を何匹も生産する、いわゆる高性能な。そのような技術が殆ど現在も確立されております。現実には東京都にもおりませんし神奈川県にもおりませんでしょうけれど、牛の種牡なんて一匹もいません。関東は群馬、集中管理をしていい牡を集めて徹底した検定をしてその精液を取って冷凍して(100年も200年も取っておける)、それを使ってやるような今の組織になっています。私等が20何年に入った時には丁度人口受精がまあ学問的には殆どあったんですが普及しておりませんので、丁度国の機関だから「お前たちやれ」ということで人口受精の方を一生懸命やった次第があります。牛を飼って牛を木の箱に乗せて精液を取って、それを処理して薄めたりして雌に入れて子供を出来るか出来ないかという初歩的な事をやっておりました。その技術が大体一週間位は種を貯蔵出来るような殆ど冷蔵保存ですけれども、それを盛んにやってたんですがそれ以上の域は出ませんでした。いわゆる研究機関じゃございせんので、絶えず農家の方が牛を飼っていても牡が種が無いということでバスに乗ってきたり、汽車に乗って来ると時間が掛かるし大変だということで、長野に居りました時にはちょっと発想の転換がございまして精液の鳩手輸送、今になれば夢・変な事なんです。鳩を飼いまして鳩舎を二つに置きまして、牧場においておくのは向こうから持ってきて、「サカリが来たよ」というとそこに種を背中に乗せて、大体10キロ位の所の二ヶ所の酪農地帯を持って送った事があります。それを6~7年やりました。その内に時代が変わりバ

スが発達して、そこからバスで来られる時代に鳩などでやる必要もないし、でも一時鳩で精液輸送をやったことは学界等には発表なんかしてありました。その頃はこういうのが流行った時代です。そんな事をやったり、いわゆる繁殖障害をいじったりして、技術的には結構私等も腕には自信があるようなつもりで現場でやっておりました。今の受精卵の移植の問題も段々になってきて、精液の保存もきくしかも受精卵の長期保存も出来る。今は屠場において開いた牛の卵巣を取ってきてその卵巣の中から卵を発育させてその中へ今の取った精液を入れて、ある程度育てて腹に入れる。しかもその受精卵等も二つとか四つに分けられるというような事が、時々新聞等に出てくると思います。今では受精卵移植も普通の事になっております、そこまできかない人口受精も殆どBOXですか、液体窒素の中に入れてそれ一本を農家に持って行くだけでどんどん子供が出来るというわような状況になっております。

益々時間が経ちやってその他の事、いろんな犬の問題それから我々の一つの只今の流れの中の高齢化社会における我々の立場、結局動物が犬や猫・鳥を捕る・動物を捕る為になるのではなくて今では愛玩動物でございますので、番犬だということではなくて動物と一緒に生活する感覚と高齢化との関係で各家庭においては年寄りだけでなく子供もそうですけれども、動物との接触が人生の中の大きな問題に成りつつある中で我々の仕事はどうなんだろうかと盛んに議論されている時代でございます。特に老人ホーム等に動物を持って行って和やかにして頂くという動きも全国的な動きとして今ありますし、環境保全の問題等で動物の問題等も随分出ております。受精卵移植の技術が開発による希少動物の絶滅に対して相当技術的なあれになるだろうとい

うことで、随分研究が進められているようでございます。人類が今の社会の環境が今破壊されてる、あと私等の倅・孫・ひこ孫が将来に渡って地球上で人間が生活してゆけるのかどうかという事が危ぶまれておるわけです。人類の知恵で末長く生きてゆける、まあ原爆爆弾が破裂したら困りますけれどもそういう方面に知恵が回っていくのではないかと。その他私等の専門ではございませんが今原子力の問題・太陽熱等の科学が発達して電気なんかも非常に安価に使える時代がくれば、食料も合成その他で人間が食べていくエネルギーは補足出来るのではないかと私自身は非常に安楽に考えております。識者やそうじゃない大変だなあという警鐘を鳴らしている方も大勢おりますが、まあそんな事で楽じゃないかなあという感じで今も楽に生きているわけでございます。



東京多摩グリーンロータリークラブ



会長：横倉 舜三

幹事：北村 幸彦

会報委員長：小島周二郎

副委員長：森田舞子

委員：海野栄一・奥木博勝・吉沢洋景

小坂一郎・佐伯和廣

事務局：東京都多摩市落合547

多摩センタービル7F

TEL 0423(72)6463/FAX 0423(72)6491

※例会場 多摩そごうデパート7F サファイヤバンケットルーム

※例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30